

## 議員特別研修実施報告書

報告議員名	高橋 聖悟	報告日	令和5年3月31日
調査研究・研修等 名 称	第17回全国市議会議長会研究フォーラム —デジタルが開く地方議会の未来—		
実 施 日	令和4年10月19日 ~ 令和4年10月20日		
会 場	長野市 ホクト文化ホール		
調査研究・研修等の 概 要	全国市議会議長会研究フォーラム ①基調講演：「コロナ後の地域経済」 ②パネルディスカッション 「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」 ③課題討議 「地方議会のデジタル化の取組報告」		
調査研究・研修等の 成果と感想	別紙報告書のとおり		

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。

### 所感

全国の市議会議員が一堂に会し、共通する課題や今後の議会のあり方について意見交換を行うとともに、議員同士のいっそうの連携を深めることを目的とした全国市議会議長会研究フォーラム長野市に参加して参りました。今回は、「デジタルが開く地方議会の未来」をテーマとし、地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性や、現場の具体的な取り組み等について討議をしたフォーラムを傍聴してきました。

「地方議会のデジタル化の現場・課題と将来の可能性」については、1、市議会のデジタル化の取り組み状況について解説があり、そこでは、全国市議会の52%導入、本会議場原則持ち込みは40%と、早期に導入を果たした我々からすると、この業界は、進みが遅いと感じた。2、地方議会の、審議のオンライン化とデジタル化への対応については、国策としてデジタル化へが注目されていることではあるが、人口減少への対応いわゆる圏域連携、公共私連携の条件としてのスマート自治体や、新型コロナへの対応、いわゆる、リモートワークの推進。こういったことがデジタル化のカギとなっていて、その一環としての地方議会のデジタル化オンライン化が議論的となり、推進していかなければならないということであった。導入、利活用に当たっては、まず、イ)議会は、面倒くさがらず受け入れること、ロ)通信環境の安定性、ハ)オンライン参加の場が議会からも市民からも可視化されている事着上での参加と近い条件を確保していること、ニ)市民への開放、わかりやすい配信、SNS等、ホ)議長の議事進行能力などなど、話を聞いて導入はしてはいても、ここから配慮すればならぬことがあるように思えた。また、さらに進んでいくなら、検討課題として、出席、電子投票、住民と議会との関係の再構築、セキュリティ、法令などが挙げられていた。また問題点としてはデジタルのリテラシーと法律のリテラシーは相性が悪い事は留意すべきだと言うことであった。そして、「他議会の先進的な取り組み状況」についてであるが、特筆すべきは、予算書のデジタル化。我々は貼りつけられたPDFの予算書であり、それでは事業、金額など細部まで知ることができないというのが現状である。しかしデジタル予算書においては目節など細部までわたってクリックしていくことで見ていくことができ、我々の審査内容も深まるということが出来るということであり、大変このことの導入については参考になり、提言していきたくと思った。あとの討議はまあまあであった。

最後に、国においては、デジタル技術を活用して地方活性化し、持続可能な経済社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」が進められており、また、経済社会のデジタル化の急速な進展と新型コロナウイルス感染症の拡大などを背景に、地方自治体そして地方議会のデジタル化も急務になっています。そのような中で我々地方議会においても、議会活動そのものをオンラインでも実施できること、紙ベースによらない事務的な仕事、また、デジタル技術を活用して議会と住民の新たなコミュニケーションの可能性を広げることの必要性を日々感じていることから、有識者や、先進自治体の話は今後の活動の一助となることができました。